

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192400164		
法人名	有限会社アートライフ		
事業所名	グループホームあおぞら毛呂山		
所在地	埼玉県入間郡毛呂山町前久保南4-16-1		
自己評価作成日	令和3年6月1日	評価結果市町村受理日	令和4年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年6月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、隣接している公園への散歩を通じ、季節の移り変わりを肌で感じて頂く。ご利用者に安心してお過ごしいただけるよう家庭的な環境づくりやスタッフの対応に心配りをしている。体力・筋力維持のため、毎日30分のリハビリ体操の実施。また、頭の体操となるレクリエーションを行い、生活にメリハリを持たせている。食事はご飯・味噌汁以外は高齢者の栄養バランスを考えたクックチル方式を採用しており、食中毒の予防や利用者との時間をより多く持てるよう配慮している。ご飯の炊ける匂い、味噌汁のだしや味噌の匂いによって家庭の温かさを感じていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・毎朝、プレイルームに集い、30分のリハビリ体操に取り組み、その後、大きな声で歌を唄うなど、身体・心肺共に活動的な時間を持ち、利用者のADL向上と笑顔で生き活きたした暮らしに結び付けられている。  
 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、定例会議で事業所の取り組みについての振り返りを行い、地域に開かれた事業所として質の確保とサービス向上にむけ取り組まれている。・目標達成計画についても、定期訓練では新人職員を中心に火災発生を想定し、初期消火など基本訓練に取り組まれるほか、備蓄品の整備、地震や風水害時の避難方法や対処法を検討されるなど、体制整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所理念とし、地域に根付いた施設となるよう全職員で共有し、実践に繋がるよう努めている。	『「ありがとう」という言葉と「笑顔」の為に努力を惜しみません』の理念のもと、利用者の思いと生活リズムを大切に、その人らしく、笑顔で生き活きと過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブや地域の行事には積極的に参加している。また、地域のボランティアの方々との交流を持っている。	最近では自粛をされているが、外出時には地域の方と挨拶を交わされたり、自治会活動の廃品回収や盆踊りに参加をされるほか、ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、地域の一員として、地域の活動に参加する事で、ご利用者との繋がりを維持する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状運営推進会議の開催が出来ていない、今後区長、民生委員、役所介護保険担当者、ご家族に参加いただき2か月に1度書面開催し、活動報告や今後の予定、ご家族や地域の方々からのご意見・ご要望を伺い、サービスの向上に役立てていきたい。	運営推進会議では、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、事業所定例会議で事業所の取り組みについての振り返りを行い、地域に開かれた事業所として質の確保とサービス向上にむけ取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度、町の担当の方や地域包括支援センターの方に事業所の利用者状況や取り組みについて報告。また、何かあれば相談するなど協力関係を築いている。	報告・連絡・相談時や困難事例の受け入れ時にコミュニケーションを図られている。また、マスク・ゴム手袋、アルコール消毒液などを頂くなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指しているが、行政承認の上、事故防止のために玄関は施錠を行っている。外出時には職員が同行している。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や書籍等メディアの情報から新しい資料を取り入れ情報の共有に努めている。学んだ情報を基に虐待の見逃しが無いよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に研修を通じて学習している。成年後見制度については、利用実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容・重要事項について十分にご家族、ご本人に説明をしご理解いただいている。改定時には、改定の事由や改定点を明確にし、ご理解いただけるまで説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への連絡の際、ご意見・ご要望などお聞きしている。いただいたご意見等は運営推進会議や職員カンファレンスで報告。会社へも毎月報告を行い、運営に反映させている。	「散歩がしたい」、「新聞を読みたい」など、利用者の要望に応えられている。家族とは連絡時に意見・要望を聴き取られ、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員との話し合いの時間を持つよう努めている。管理者は、日常業務やカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、施設や職員の資質向上に反映させている。	定例会議などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がづくられ、食事メニューやおやつづくりなど、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員と面談を行い、相談を受け上長に報告している。上長より代表者へ結果報告を行い、代表者より職場環境・条件の整備に尽力いただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な内容が勉強できるよう、eラーニングを取り入れる他、資格取得へのサポート、配慮もいただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間の情報交換会やサービス事業者連絡会、地域包括支援センター主催の講習会、勉強会などへの積極的な参加を促していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い話に耳を傾け、困りごとや不安の解消に共に全職員で取り組み、信頼していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時・導入後共に、ご利用者・ご家族・ケアマネジャー・看護師等と管理者で話し合いの機会を持ち、信頼していただけるよう努めている。心配事については、連絡の機会を多く持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初から様々なサービスを進めるのではなく、まずは生活の場として安心して日常生活が送れるよう援助している。その後、身体の状態など必要に応じて他のサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者には、自分の役割を意識して、生きがいを持って日々生活していただけるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族それぞれに事情が違うことを踏まえ、ご家族と施設がより良い関係を保持できるよう連絡を密にとり、共に本人を支えていく姿勢を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と自宅へ戻る、職員と一緒に馴染みのある祭りに参加するなどの支援を行っている。かかりつけ医への受診援助も行っている。	近所の方が公園を散歩がてら、施設の窓越しに声をかけて下さるほか、馴染みの理・美容室に出かけられたり、家族の協力を得て自宅に戻られるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外気浴・ドライブ・誕生会やおやつ作り等、ご利用者間のコミュニケーションが図れるプログラムを日課の中に取り入れ参加を促している。フロアの席も利用者間の関係に配慮し決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙・電話等で連絡を取り、要望があれば本人・家族の経過のフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の聞き取り(アセスメント)や介護計画説明時に家族の意向、日々本人のニーズをお聞きしている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行い、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取り返り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の訪問面談、ご本人からの聞き取り、ご家族、担当ケアマネジャー等からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間の経過と共にご利用者の状況も変わっていくため、日々現状の把握に努め、月1回のカンファレンスの場で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のアセスメント、ご本人・ご家族の生活に対する意向を伺い、介護計画を作成。その後はモニタリングやカンファレンス、業務日誌を活用し、全職員で現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、衣服着脱時の介助手法や食材の調理上の注意など、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	都度生活記録に様子等記録し、誰もが情報共有できる環境を整え、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人で使う日用品や衣類等、家族に代わって職員が購入することが多い。外部への受診も家族が付き添えない場合は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭り等の催事への参加に努めている。施設での行事の際には、利用者の状況にあった様々な地域ボランティアの方々の協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は主治医が月2回訪問してくれており、それ以外にも電話対応や臨時の往診も受けられるようになっている。皮膚科・歯科・眼科の専門医も往診で受けられるようになっている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をいただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問診療の看護師に24時間体制で連絡が取れるようになっている。また、必要があれば医師が往診してくれる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の日常の情報を提供し、安心して入院生活を送れるよう支援したり、入院中のご本人の状態を把握し、ご家族や病院関係者、訪問診療医との連携を密に行い、早期退院に向けての支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の対応については、介護計画説明時に現状と今後について都度共有、話し合いを行っている。	入居時に事業所が対応し得るケアについての説明が行なわれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後は状況に応じて、意向に沿った最大限の支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応については、消防署の救急隊にご指導いただき救急救命訓練を行っている。また、看護師による研修も行っている。救急対応マニュアルを設置し、冷静な対応を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、消防署員にご指導いただいている。消防計画に基づき職員に対応を促している。近隣の方へは認知症の方が生活するグループホームであることを説明し、ご協力をお願いしている。	定期訓練では夜間時に脱衣所乾燥機からの火災発生を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練に取り組まれている。また、備蓄品の整備、地震や風水害時の避難方法や対処法を検討されるなど、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者をあずかる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である方として尊敬の気持ちを持ち、その方に合わせた対応を心がけ接している。居室への訪室、入浴、排泄等、ご本人のプライバシーには十分配慮している。	優しく丁寧な声掛けを心掛けているほか、入浴の際も個別入浴を行うなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人のさりげない言葉や行動からご本人の思いを汲み取り、希望を表しやすい環境、自己決定できる環境をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者に寄り添う中で、その時の気分や体調も考慮し希望に沿ったケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った身だしなみやお好みのおしゃれができるようお手伝いさせていただいている。また、季節ごとの着衣、外出時や行事の時の身だしなみ等留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を掲示し話題にすることで、楽しみにしていただいている。配膳は職員が行うが、盛付や片付けは一緒に行っていただいている。定期的に食事やおやつ作りを取り入れる等、意欲や能力を引き出すよう取り組んでいる。	利用者の個々の状態に合わせて、盛り付けや後片付けなど、職員と共に行われている。桜の時期には庭でお花見をしながらランチをされたり、旬の筍を頂戴すれば炊き込みご飯にするなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは献立によって管理されている。食事量はご本人の生活状況や体調に考慮して提供。また、その方の状態に合わせた食事形態での提供を行っている。水分は、お好みの飲み物、お好みの温度での提供も行い、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと必要に応じて歯磨きや義歯洗浄のお手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシー保護に配慮し、さりげない声掛けと誘導、時間を考慮した誘導を行う等自立にむけた支援を心がけている。	利用者一人ひとりの排泄の状況が把握され、時間帯や体調の変化に応じて介助方法を変えて対応されている。成功事例はカンファレンスで共有され、トイレに行けることを重点的に、自立支援に繋がるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝30分のリハビリ体操実施。また、1日を通じて水分補給を促している。必要な方には継続的な排便の管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴されている。基本的には曜日は決められているが、体調や気分によっては変更する等柔軟に対応している。	できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。一部職員2人体制での支援にはなるが、全ての利用者が浴槽にゆっくり浸かり、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日課に沿って生活していただいているが、休息の時間も組み入れ、無理強いをせず個々の意向を尊重した支援を行っている。室温調整も個々の状況に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方薬の管理に細心の注意を払い誤薬・飲み残しのないように確認を行っている。服薬後の状況については、主治医との連携を取っている。薬局の居宅療養管理指導サービスは導入済み。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から個々にあった話題を提供しての会話を楽しんでもらったり、個々の得意な事や興味・関心のあることを日課に取り入れ、生活の中で自然に行えるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただけるよう外気浴を取り入れたり、ドライブ、地域のお祭りの見学等戸外に出る機会を設けている。ご家族との外出も体調を整える等、実現できるよう支援している。	最近では自粛されているが、事業所前の公園での散歩や外気浴を楽しまれているほか、ドライブや季節の花見、利用者の希望に沿った理・美容室に出かけられるなど、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの居室は施錠がされていないため、施設預かりとしている。ご本人の買い物希望時には職員が同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は、ご本人にもおつなぎしている。電話を家族に掛けたいという要望には不穩状況等を考慮して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であることから、色・音・匂いに配慮している。リビングには季節に合った作品を飾るなど季節感を取り入れている。	リビング・プレイルームともに大きな窓から公園の緑が観え、明るく快適な空間となっている。装飾も季節の雨降る中、紫陽花に蛙・蝸牛の貼り絵、あやめの花飾りが飾られている。また、空気清浄も行われ、感染防止対策もとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席順に配慮しコミュニケーションが取りやすいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入所時には、ご本人の使い慣れた馴染みの品をそのままお持ちいただけるようお願いしている。	馴染みの家具や寝具が持ち込まれるほか、季節の花が飾られるなど、利用者が気持ちよく過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎日掃除が行われ、清潔な環境づくりに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員はご利用者個々の出来ること、わかることを把握。施設設備にわかりやすい案内表示をつけるなど自立支援に向けての工夫をしている。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名: グループホームあおぞら毛呂山

作成日: 令和 3年 7月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組み	ご利用者様や地域の方々と共に年2回の消防災害訓練を計画的に実施することができる。コロナの状況を見たとえで、地域の住民が参加できない場合には、自拠点内で確実にやっていく。	①年2回の消防訓練を計画的に実施し、夜間、日中(年1回は総合訓練)を実施する。 ②避難経路を実際に移動する。 ③災害時の備蓄品(期限確認)やライト等の場所を職員と確認する。 ④停電時にライトがすぐに分かる位置に設置しておく。 ⑤重度のご利用者様を把握しておき、避難方法を決めておく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。